

一般社団法人

日本看護研究学会

第47回学術集会

講演集

脳とこころのケアとサイエンス

会期

ライブ配信:

2021年8月21日(土)・22日(日)

オンデマンド配信:

2021年8月21日(土)～9月3日(金)

会場

オンライン開催

学術集会長

塩飽 仁

東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻
小児看護学分野 教授

学術集会事務局：東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻 小児看護学分野内
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2番1号
E-mail : 47am@jsnr.or.jp

運営事務局：株式会社ソノベ
〒980-0014 仙台市青葉区本町1丁目12-12 GMビルディング7F
E-mail : jsnr47@sonobe.co.jp

一般社団法人日本看護研究学会 第47回学術集会

ごあいさつ

一般社団法人日本看護研究学会 第47回学術集会

会長 塩飽 仁

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻 教授

このたび、一般社団法人日本看護研究学会第47回学術集会を2021年8月21日(土)、22日(日)の2日間(オンデマンド配信は9月3日(金)まで)、オンラインで開催させていただくこととなりました。

テーマは「脳とこころのケアとサイエンス」といたしました。

私の看護師としての最初の臨床現場は手術部でした。そこで同じ重症の火傷の子供の手術を何度も担当し、火傷は徐々に治っていても心が荒れていくことを目の当たりにしました。その経験を出発点にして、大学院では子供のメンタルケアを学びました。その後約30年にわたってがんや発達障害の子供やご家族のメンタルケアに実際にかかわってきたなかで実感したことは「人間はこころによって成り立っている生き物だな」ということでした。

そして1996年に出版されたある論文を読んで、脳とこころは連動することを知りました。その論文は "Ana María Magariños, Bruce S. McEwen, Gabriele Flugge and Eberhard Fuchs: Chronic Psychosocial Stress Causes Apical Dendritic Atrophy of Hippocampal CA3 Pyramidal Neurons in Subordinate Tree Shrews. The Journal of Neuroscience, 16(10): 3534-3540, 1996 (<https://doi.org/10.1523/JNEUROSCI.16-10-03534.1996>)" です。この論文は、慢性的な心理社会的ストレスを与えられたネズミの脳では、海馬の脳神経細胞の先端で特異的に萎縮がおきるという内容でした。目に見えないストレスは脳にダメージを与えることが実験によって示されていました。

人間はこころによって生きている、という私の感覚とこの論文の内容は相通ずるところがあり、それ以来こころと脳と体の関連に興味を持つようになりました。また一方で、脳とこころの関係性が多くの研究者によって明らかにされるようになり、それらの生体としての反応が遺伝的にプログラムされていることは、今では常識になりました。

人間の脳とこころの活動は相互に強く影響し合い、また体内外のストレスに応じて、ダメージを受けたり耐えたり回復したりしています。適切なケアの提供は、脳とこころを修復し、さらに以前よりたくましくなる変化をもたらすこともあります。

これらのメカニズムについて学び、それらの知見をケアに生かす時代がやってきたと思います。今回の学術集会のテーマはこのような考えから定めたものです。

2021年は東日本大震災から10年の節目を迎える年でもあります。予測が困難な様々な災害やCOVID-19という困難に直面させられる今の情勢だからこそ、脳とこころのケアとサイエンスを皆様とともに学び活かしていきたいと思っております。

第47回学術集会は、COVID-19の影響を考慮して、講演演題は事前に収録した動画を参加される皆様のご都合に合わせて視聴していただくオンデマンド配信とし、一般演題（口演）の発表や交流集会で意見交換を行っていただく企画については、双方向のライブ配信での開催を準備をしました。

当初、本学術集会は仙台で開催する予定でしたが、COVID-19の状況から何度か開催方法を見直し、ハイブリッド形式をとりやめ、最終的にはオンライン開催することになりました。これにともない、企画と運営は、当初の予定とは異なる内容になりますことをご容赦いただきたいと存じます。

本学会としては初の新しい学術集会開催形式にチャレンジし、New Normalの基盤となるよう尽力したいと考えております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術集会に参加される方へのご案内

I. 共通事項

1. 開催形式

第47回学術集会は、オンラインのライブ配信とオンデマンド配信のみで開催させていただきます。会期は、2021年8月21日(土)・22日(日)ですが、オンデマンド配信のコンテンツは9月3日(金)18時まで視聴することができます。

※オンライン会場は8月21日(土)10時に開場いたします。

2. 参加登録／参加費お支払い方法

1) 学術集会に参加される方は、参加登録と参加費のお支払いが必要です(一般演題〔口演、示説〕、交流集会演題企画者、一般演題〔口演〕座長を含みます)。

2) 参加登録と参加費のお支払いは、学術集会のweb site内の「参加登録」のページで行ってください。

3) 参加登録と参加費のお支払いは、Peatix(ピーティックス)社のシステムを使用いたします。Peatix社でのお支払いは、クレジットカード・コンビニ・ATMがお使いいただけます。

※お支払いの確認後に視聴のためのチケットが配布されるため、コンビニ・ATM払いでのお支払いをご希望される方は、8月19日(木)までにお支払いをお願いいたします。

4) 領収書は、Peatix社のシステムにログイン後に「領収データを表示」から画面に表示、印刷してご利用ください。領収書発行は9月3日(金)18時までご利用が可能です。

5) 教育機関等で一度に複数の参加者登録を行いたい場合は、下記の運営事務局にお問い合わせください。

◆運営事務局：株式会社ソノベ

E-mail：jsnr47@sonobe.co.jp

6) 参加費

参加登録期間：2021年8月22日(日)16時まで

※会期中もご登録いただければ、すぐにご参加いただけます。

参加区分	参加費
会 員	11,000円
非 会 員	13,000円
学 生	1,000円

※「学生」は、大学院生および看護師資格を有する研修学校生などは含みません。

3. オンライン会場へのアクセス方法と参加証発行

1) ログイン方法

参加登録と参加費のお支払いが完了すると、Peatix社より登録したメールアドレスにメールが届きます。メールにはオンライン会場に入場するボタン「イベント視聴ページに移動」が表示されています。このボタンをクリックし、ログインしてご入場ください。または、Peatixホームページへログインしていただき、マイページのマイチケットからご参加いただくことも可能です。

2) 参加証の発行

会期中に学術集会web siteでご案内いたします。

4. 講演・演題の抄録について

2021年8月12日に、学会誌「日本看護研究学会雑誌 第44巻3号 第47回日本看護研究学会学術集会－プログラム及び内容要旨」が電子発刊されます。この学会誌に講演・演題の抄録等が掲載されますので、そちらをご覧ください。

この学会誌は学会会員でなくとも無料で閲覧することができます。

参加登録された方に、あらためて冊子等で講演・演題の抄録をお送りすることはございません。

日本看護研究学会雑誌 44巻3号 第47回日本看護研究学会学術集会「プログラム及び内容要旨」のURLは以下です。

https://www.jsnr.or.jp/journal/files/44_3.pdf

※右のQRコードからもアクセスできます。

※学会雑誌は2021年8月12日から公開予定です。



5. 留意・禁止事項

- 1) 参加費をお支払いいただいた方のみ、オンライン会場にご入場いただけます。
- 2) 参加費をお支払いいただき発行されたチケットでは、同時に1回しかご入場いただけません。
- 3) ご入場いただいた方お一人のみが視聴できます。ご入場いただいた方の画面を複数の方が一緒に視聴することはできません。また、1枚のチケットを複数の方で共有して使用することもできません。
- 4) 学術集会は学会会員の皆様の会費と、ご参加いただく皆様の参加費によって運営されております。ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。
- 5) 本学術集会のオンライン会場において掲載されているすべての内容の著作権は、著作者（発表者）に帰属いたします。
- 6) 著作権法および関連法律、条約により、私的使用など明示的に認められる範囲を超えて、オンライン開場内の掲載内容（文章、画像、映像、音声など）の一部およびすべてについて、事前の許諾なく無断で複製、転載、送信、放送、配布、貸与、翻訳、変造することは、著作権侵害となり、法的に罰せられることがあります。
- 7) 著作権者からの許可無く、録画、録音、キャプチャ、スクリーンショットしたり、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを禁止します。

6. 学術集会アンケート

今後の学術集会の企画・運営のために、アンケート（無記名）へのご協力をお願いします。

下記QRコードもしくはアンケートURLにアクセスいただきご回答をお願いいたします。

※アンケートのURL <https://forms.gle/78zSshQmZk32cF6r5>



II. 参加者の皆様へ

1. リアルタイム・ライブ配信（奨学会研究発表，口演，交流集会）への参加について

- 1) Web 会議サービス「Zoom」を利用して開催します。お使いの端末（PC，タブレット，スマートフォン）に、あらかじめ専用のアプリケーションソフトウェアのインストールが必要です。
Zoom 公式ホームページ (<https://zoom.us/download>) より「ミーティング用 Zoom クライアント」をダウンロードしてインストールしてください。
- 2) ご参加される方は，オンライン会場のメニューから，発表会場へ直接アクセスしてください。
会場にご入場の際はお名前をご入力ください。
- 3) 各会場の定員は300名です。定員に達するとご入室できません。随時入退室が可能です。
- 4) 交流集会13では事前登録が必要です。この企画の定員は100名となります。交流集会の演題抄録に事前登録の方法が記載されていますので，各自ご登録ください。
- 5) 一般演題（口演）での質疑応答について
 - ・ Zoom のウェビナー形式で行われます。
 - ・ 参加者のお名前やカメラ映像は会場内に表示されることはありません。
 - ・ ご質問がある場合は，Zoom の画面下方にある「Q & A 機能」を使ってご質問をご入力ください。座長が質問を採択し，発表者にお答えいただきます。質問多数の場合は，時間内に回答できないことがあることを，あらかじめご了承ください。
- 6) 交流集会での質疑応答について
 - ・ Zoom のミーティング形式で行われます。
 - ・ 参加者のお名前やカメラ映像（任意）が会場内に表示されます。通常はマイクをオフにしてご参加ください。
 - ・ ご質問・ご意見は，Zoom の画面下方にある「リアクション」の中の「手を挙げる」を使い，指名された方がマイクをオンにしてご発言ください。
 - ・ 詳しくは交流集会企画者の指示にしたがってご参加ください。

2. オンデマンド配信の視聴について

オンデマンドで配信される講演の動画は，8月21日（土）10時から9月3日（金）18時までの間で，ご都合のよいときに視聴することができます。
一時停止したり，繰り返し視聴したりすることが可能です。

Ⅲ. 発表者の皆様へ

【必須事項】利益相反(COI)の開示について

- 発表に際し、発表演題に関する利益相反状態の開示が必要です。対象は一般演題(口演・示説)、交流集会などすべての発表です。
- 開示方法につきましては、下記の様式を用いて、発表用のスライドのタイトルの次の2枚目にご用意ください。なお、利益相反の有無にかかわらず、全ての発表者にご開示いただく必要があります。
- 開示すべき内容については、次のリンクで学会の指針等をご確認ください。
※一般社団法人日本看護研究学会 利益相反のページ
URL <https://www.jsnr.or.jp/outline/coi/>
- COI 開示フォーマット
[開示すべき COI がない場合] URL https://www.jsnr.or.jp/outline/coi/coi_form_1-1.pptx
[開示すべき COI がある場合] URL https://www.jsnr.or.jp/outline/coi/coi_form_1-2.pptx

1. 一般演題(口演)発表者の皆様へ

【発表前に事前にご確認いただくこと】

- 1) 安定した通信状態を確保するために、有線 LAN でのネットワーク接続を強くお勧めいたします。
- 2) 一般演題(口演)会場には、発表群の開始時刻20分前に必ず入室してください。学術集会オペレータと座長、演者との間で通信状況、音声、画像等の確認を行います。パワーポイント画面共有を試行する場合は、この時間の間に行ってください。
- 3) ご自身の発表のある群が進行中は、発表開始から終了まで接続を切断することなく継続してご参加ください。
- 4) 発表データ作成要領
 - ① パワーポイント等を使用し発表用スライドを作成してください。事前の提出はございません。
 - ② 発表時間は1題7分、質疑応答3分といたします。
 - ③ 作成いただくスライドサイズは16:9(横)をお願いします。
 - ④ スライド枚数に制限はございません。時間内に発表できる枚数を設定してください。
 - ⑤ 事前にスライドの動作確認をお願いします。
- 5) 下記の項目に1つでも当てはまらない場合、発表することができませんのでご注意ください。
 - ① 発表者、共同発表者を含めて全員が日本看護研究学会会員であること。
 - ② 発表までに、発表者、共同発表者を含めて全員が2021年度までの会費納入をしていること。
 - ③ 本学術集会の参加登録を行っていること。

【発表時の操作について】

- 1) ご自身の発表は Zoom「画面共有」機能を使用して、スライド操作をご自身で行っていただきます。前の演者の発表終了が近づいたら、すぐにご自身の発表に移れるようにご準備ください。また、音声ミュートを解除する準備を行ってください。
- 2) 前の演者の発表が終了しないうちは画面の共有は開始しないでください。発表開始時の画面共有は、必ず前の発表が完全に終了したことを確認してから行ってください。

- 3) 前の演者の発表が終了したら、画面共有を開始し、音声ミュートを解除した上で、座長からの紹介に続いて発表を開始してください。
- 4) 発表時間は厳守してください。計時進行の合図はありませんので、発表者自身で発表時間を管理してください。
- 5) 参加者の通信環境への配慮を行ってください。参加者（視聴者）のネットワーク環境によっては、発表者の示す画面や音声が遅延する場合があります。そのことを考慮して発表をお願いします。
- 6) 参加者（視聴者）の質疑は、Zoomの「Q&A機能」を使用し、座長より伝えられます。画面共有を解除し、座長の指示に従って質問にお答えください。
- 7) 質疑応答が終了したら、速やかに音声をミュートにしてください。

2. 一般演題（示説）発表者の皆様へ

【発表前に事前にご確認いただくこと】

1) 発表データ作成要項

- ① パワーポイントで作成し、PDFデータに変換したものを事務局より連絡した期日までに、メールに添付してご提出ください。
- ② スライド枚数は、表紙ページとCOIの表示を含めて16枚までとさせていただきます。
- ③ 大判ポスターサイズのスライドは掲載できません。
- ④ スライドサイズは16：9（横）で作成をお願いします。

2) 下記の項目に1つでも当てはまらない場合、発表することができませんのでご注意ください。

- ① 発表者、共同発表者を含めて全員が日本看護研究学会会員であること。
- ② 発表までに、発表者、共同発表者を含めて全員が2021年度までの会費納入をしていること。
- ③ 本学術集会の参加登録を行っていること。
- ④ 発表データを切り期日までに提出すること。

【発表時の操作について】

- 1) 一般演題（示説）の閲覧期間は、2021年8月21日（土）10時から9月3日（金）18時までです。
- 2) 座長は設けません。口頭でのご発表はありません。
- 3) 上記期間内に各演題専用の電子掲示板をオンライン会場内に設置いたします。参加者からの質問や意見が随時書き込まれますので、発表者は掲示板を確認して、回答等を書き込んでください。

※演題の電子掲示板に書き込みがあると、演題登録時にご入力いただいたメールアドレスにメールが送信されます。

4) 示説発表データのコピー・二次利用の防止について

- ・日本看護研究学会第47回学術集会はオンライン開催となります。一般演題（示説）はオンライン学会会場で公開され、会期中は閲覧可能となりますので、ご了承ください。
- ・ご登録いただいた一般演題（示説）PDFデータは閲覧ができますが、コピー（ダウンロード）できません。

・参加者には、オンライン学会会場ログイン時に以下の同意を求めます。

- ① 配信画面の撮影・録画や加工・二次利用を行わないことを誓約する。
- ② 違反行為が判明した場合には、学会の処分に従う。

3. 交流集会の企画者の皆様へ

- 1) 交流集会は Zoom のミーティング形式を用いて、オンライン・ライブ配信で実施していただきます。
- 2) 安定した通信状態を確保するために、有線 LAN でのネットワーク接続を強くお勧めいたします。
- 3) 交流集会会場には、セッションの開始時刻 15 分前に必ず入室してください。学術集会オペレータと企画者との間で通信状況、音声、画像等の確認を行います。パワーポイント画面共有を試行する場合は、この時間の間に行ってください。
- 4) 学術集会オペレータが企画者を共同ホストとして設定いたします。参加者の方には、セッション開始の5分前から入室していただきます。時間になりましたら企画者が進行して、セッションを開始してください。
- 5) 1つのセッションは60分です。
- 6) 参加者のお名前やカメラ映像(任意)が会場内に表示されます。参加者は通常はマイクをオフにして参加します。参加者が質問や意見を述べたいときは、参加者の画面に「手を挙げる」アイコンが表示されますので、企画者が指名して、参加者がマイクをオンにして発言します。
- 7) セッション中の参加者からの質問やコメントにお答えいただく方法・タイミングは企画者に一任いたします。
- 8) セッション終了時間になりましたら速やかに終了し、ご退出をお願いします。
- 9) 下記の項目に1つでも当てはまらない場合、発表することができませんのでご注意ください。
 - ① 企画者、共同企画者を含めて全員が日本看護研究学会会員であること。
 - ② 発表までに、企画者、共同企画者を含めて全員が2021年度までの会費納入をしていること。
 - ③ 本学術集会の参加登録を行っていること。

IV . 一般演題(口演)の座長の皆様へ

1. 発表の進行について

- 1) 事前にお配りするプログラムの時間に基づき、時間厳守をお願いいたします。
- 2) 発表の順番になっても演者が入場しない、接続の不都合等があり発表ができない場合は、事務局よりチャット機能を使いお知らせします。それらの場合は、以下の通り進行をお願いいたします。
 - ① 次の演者を繰り上げてセッションを進めてください。
 - ② スキップした演者が発表できる場合は、セッションの最後に発表していただきます。
 - ③ 演者が欠席した場合は、質疑応答の時間を長めにとっていただいてもかまいません。
 - ④ いずれの場合でも、終了時間の厳守をお願いいたします。
- 3) セッションが予定よりも早く終了した場合でも、次の群の開始は前倒しせず、予定時刻通りに開始いたします。

2. 発表中の対応について

- 1) 発表が開始されたら、演者の画面や音声の問題がないことをご確認ください。
- 2) 発表者が発表時間を超えて話し続けるようでしたら、警告し終了するようにお伝えください。
- 3) 質疑応答については Zoom の「Q&A 機能」を使用します。書き込みがありましたら、適宜質問を選んで読み上げていただき、発表者へ回答を求めてください。

日程表 1日目 2021年8月21日(土)

	講演	Zoom会場1	Zoom会場2	示説	Zoom会場3	Zoom会場4
10:00						
		10:30~11:00 奨学会研究発表				
11:00					11:00~12:00 交流集会 1 生活習慣病患者に対する「聞き書き」という看護介入の紹介	11:00~12:00 交流集会 2 発達障害特性が感じられる看護師への現任教育での課題と解決法の検討
		11:20~12:00 口演 1群 がん看護 (O-01~04)	11:20~11:50 口演 2群 小児看護 (O-05~07)			
12:00						
	講演			示説		
	会期中から オンデマンド 期間中 24時間 アクセス可能 9月3日(金) まで			会期中から オンデマンド 期間中 24時間 アクセス可能 9月3日(金) まで		
13:00						
		13:30~14:10 口演 3群 看護管理 1 (O-08~11)	13:30~14:10 口演 4群 慢性期看護 (O-12~15)		13:30~14:30 交流集会 3 研究倫理委員会 交流集会 利益相反(COI)と COI管理	13:30~14:30 交流集会 4 看護における対話の 可能性 ~オープンダイアローグ の基礎と「聴く」「話す」の体験~
14:00						
		14:40~15:30 口演 5群 看護教育 1 (O-16~20)	14:40~15:40 交流集会 5 〈看護保険連合WG〉 医療依存度の高い子ども のいる家族が子育てできる 力をつける医療・保健・福祉 ・教育関係者のチームづくり ~課題の整理と方策の検討~		14:40~15:40 交流集会 6 模擬患者(Simulated Patient: SP)の立場から考える効果的な 模擬患者参加型教育 ~教員とSPの意識の ずれに着目して~	14:40~15:40 交流集会 7 〈将来構想委員会看護系 保険連合WG〉 「急性期病院に入院する 高齢者に対する身体拘束の 最小化」 ~急性期病院における 高齢者への安全な医療・ 看護提供検討プロジェクト~
15:00						
16:00						

日程表 2日目 8月22日(日)

	講 演	Zoom会場1	Zoom会場2	示 説	Zoom会場3	Zoom会場4
10:00		10:00~11:00 交流集会 8 多職種連携を促進する 話し合いの進め方 「ホワイトボード・ ミーティング®」				
11:00					11:00~12:00 交流集会 9 〈編集委員会企画〉 新創刊した <i>Journal of International Nursing Research</i> (JINR)への 論文投稿のすゝめ	11:00~12:00 交流集会 10 ギャンプル等依存症 対策とコロナ下での 看護のあり方について
12:00		11:20~12:00 口演 6群 健康増進・ リハビリテーション看護 (O-21~24)	11:20~12:00 口演 7群 看護管理 2 (O-25~28)			
13:00	講 演 会期中から オンデマンド 期間中 24時間 アクセス可能 9月3日(金) まで			示 説 会期中から オンデマンド 期間中 24時間 アクセス可能 9月3日(金) まで		
14:00		13:30~14:10 口演 8群 母性看護・災害看護 (O-29~32)	13:30~14:10 口演 9群 看護教育 2 (O-33~36)		13:30~14:30 交流集会 11 アルコール依存症者 の家族へのエンパワ メントプログラム その2 ーコンプリメント、解決像 の構築の技法体験ー	13:30~14:30 交流集会 12 〈国際活動推進委員 会企画〉 国際活動への第一歩、 いまさら聞けない英文 投稿のすゝめ
15:00		14:40~15:20 口演 10群 精神看護 (O-37~40)	14:40~15:20 口演 11群 急性期・ ターミナル看護 (O-41~44)		14:40~15:40 交流集会 13 実践研究活動推進 ワーキングの立ち上 げと活動の紹介 ー研究をつなげる仲間 を求めてー	14:40~15:40 交流集会 14 日々の看護の気づき を新しい看護技術と して開発し、対象者 に還元するために (Miyajima 式腹部圧 迫法の例)
16:00						

プログラム

会長講演 8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

脳とこころのケアとサイエンス

塩飽 仁（東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻家族支援看護学講座 小児看護学分野 教授）

特別講演1 8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

心のケアにおける科学的理解の重要性と限界

生地 新（北里大学大学院医療系研究科医療人間科学群発達精神医学 教授／
日本精神分析学会 前会長）

特別講演2 8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

脳とこころの健康のために DOHaD を理解する

大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野 教授／東北大学 副学長）

東日本大震災10周年講演1 8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

災害後のこころの反応とその支援

福地 成（東北医科薬科大学医学部 精神科学教室 病院准教授／
公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター センター長）

東日本大震災10周年講演2 8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

東日本大震災 子どもの居場所づくりと心のケア 10年間の活動から見えてきたもの

柴田 滋紀（特定非営利活動法人にじいろクレヨン 代表）

インタビュアー：佐藤 穂波（東京大学医学部附属病院）

※東北大学医学部保健学科看護学専攻 2012年度卒業生

奨学会研究発表 8月21日(土) 10:30~11:00

リアルタイム・ライブ配信 (Zoom)

座長：阿部 幸恵 (一般社団法人日本看護研究学会奨学会委員会 委員長/東京医科大学 教授)

日本語版 Weight Efficacy Life-Style Questionnaire の開発

2020年度奨学会奨学金授与者

石川 恵子 (京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 看護科学コース 博士後期課程)

看護薬理学公開セミナー 8月21日(土)~9月3日(金)

オンデマンド動画配信

脳に効く薬の不思議

西 昭徳 (久留米大学 医学部 薬理学講座 教授)

共催：日本薬理学会

交流集会プログラム

交流集会 第1日目 8月21日(土)

11:00～12:00 交流集会1

Zoom会場3

生活習慣病患者に対する「聞き書き」という看護介入の紹介

発表者：岡 美智代 (群馬大学大学院保健学研究科)
上星 浩子 (群馬パース大学)
高橋 さつき (群馬大学大学院保健学研究科)
松本 光寛 (群馬大学大学院保健学研究科)

11:00～12:00 交流集会2

Zoom会場4

発達障害特性が感じられる看護師への現任教育での課題と解決法の検討

発表者：西田 千夏 (藍野大学 医療保健学部 看護学科)
合田 友美 (千里金蘭大学 看護学部 看護学科)

13:30～14:30 交流集会3

Zoom会場3

研究倫理委員会交流集会 利益相反(COI)とCOI管理

発表者：飯田 香緒里 (東京医科歯科大学産学連携研究センター)
高見沢 恵美子 (関西国際大学看護学研究科)
森 千鶴 (筑波大学 医学医療系)
祖父江 育子 (広島大学医系科学研究科)
脇坂 浩 (浜松大学 医学部)

13:30～14:30 交流集会4

Zoom会場4

看護における対話の可能性 ～オープンダイアログの基礎と「聴く」「話す」の体験～

発表者：門間 晶子 (名古屋市立大学大学院看護学研究科)
浅野 みどり (名古屋大学大学院医学研究科 総合保健学専攻)
山本 真実 (浜松医科大学 医学部 看護学科)
細川 陸也 (京都大学大学院医学系研究科 人間健康科学専攻)
富塚 美和 (駒沢女子大学 看護学部/名古屋市立大学大学院看護学研究科 博士後期課程)
加藤 まり (名古屋市立大学大学院看護学研究科 博士後期課程)
中畑 ひとみ (藤田医科大学/名古屋市立大学大学院看護学研究科 博士後期課程)

〈看護保険連合WG〉

医療依存度の高い子どもがいる家族が子育てできる力をつける
医療・保健・福祉・教育関係者のチームづくり ～課題の整理と方策の検討～

発表者：泊 祐子 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
濱田 裕子 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
岡田 摩理 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
市川 百香里 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
部谷 知佐恵 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
遠渡 絹代 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
竹村 淳子 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)
赤羽根 章子 (看護保険連合WG 障がい児プロジェクト)

模擬患者(Simulated Patient: SP)の立場から考える効果的な模擬患者参加型教育
～教員とSPの意識のずれに着目して～

発表者：西山 忠博 (大阪青山大学 健康科学部 看護学科)
笠松 由利 (大手前大学 国際看護学部)

〈平成2年度日本看護研究学会将来構想委員会看護系保険連合ワーキング活動報告〉

急性期病院に入院する高齢者に対する身体拘束の最小化
～急性期病院における高齢者への安全な医療・看護提供検討プロジェクト～

発表者：叶谷 由佳 (日本看護研究学会将来構想委員会/看保連ワーキング委員)
菅野 眞綾 (横浜市立大学)
土肥 眞奈 (横浜市立大学)
佐々木 晶世 (横浜市立大学)
丸山 幸恵 (横浜市立大学)
金田 明子 (横浜市立大学)
星 美鈴 (横浜市立大学)

多職種連携を促進する話し合いの進め方「ホワイトボード・ミーティング[®]」

発表者：奥西 春美（株式会社ひとまち）
内田 浩江（四條畷学園大学 看護学部）
菊原 美緒（防衛医科大学校 看護学科）

〈編集委員会企画〉

新創刊した Journal of International Nursing Research (JINR) への
論文投稿のすゝめ

発表者：法橋 尚宏（神戸大学大学院保健学研究科）
岡 美智代（群馬大学大学院保健学研究科）
吉永 尚紀（宮崎大学 医学部 看護学科）

ギャンブル等依存症対策とコロナ下での看護のあり方について

発表者：日下 修一（聖徳大学 看護学部）

アルコール依存症者の家族へのエンパワメントプログラム その2
—コンプリメント、解決像の構築の技法体験—

発表者：越智 百枝（愛媛県立医療技術大学）
中平 洋子（愛媛県立医療技術大学）
坂元 勇太（愛媛県立医療技術大学）

〈国際活動推進委員会企画〉

国際活動への第一歩, いまさら聞けない英文投稿のすすめ

- 発表者: 岡 美智代 (群馬大学大学院保健学研究科)
若村 智子 (京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻)
中平 みわ (京都光華女子大学 健康科学部 看護学科)
中本 五鈴 (京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 博士後期課程)
法橋 尚宏 (神戸大学大学院保健学研究科 家族看護学分野)

実践研究活動推進ワーキングの立ち上げと活動の紹介 —研究をつなげる仲間を求めて—

- 発表者: 若村 智子 (京都大学)
前田 ひとみ (熊本大学)
浅野 みどり (名古屋大学)
佐藤 正美 (東京慈恵会医科大学)
深井 喜代子 (東京慈恵会医科大学)

日々の看護の気づきを新しい看護技術として開発し, 対象者に還元するために (Miyajima 式腹部圧迫法の例)

- 発表者: 宮島 多映子 (大阪医科薬科大学 看護学部)
村松 仁 (東京医療保健大学 立川看護学部)
中村 朋子 (兵庫大学 看護学部)
西尾 仁治 (大西脳神経外科病院)

一般演題プログラム

一般演題・口演 第1日目 8月21日(土)

11:20～12:00 口演 1群

Zoom会場1

[がん看護]

座長：村上 好恵(東邦大学 看護学部)

O-01 がん薬物療法中患者の心配の程度と病期による違い

—がん患者心配評価尺度を用いた実態調査—

○川崎 麻美¹⁾、金岡 麻希²⁾、野末 明希²⁾、新坂 ともみ³⁾、松田 仁美³⁾、児玉 みゆき²⁾、
内田 倫子²⁾、竹山 ゆみ子²⁾、柳田 俊彦⁴⁾、木下 由美子²⁾

1) 宮崎県立日南病院、2) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 成人・老年看護学領域、

3) 宮崎大学医学部附属病院、4) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 臨床薬理

O-02 がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life とレジリエンスに関する横断研究： 生命予後別の比較

○新坂 ともみ¹⁾²⁾³⁾⁴⁾、金岡 麻希²⁾、内田 倫子²⁾、川崎 麻美³⁾、松田 仁美¹⁾、野末 明希²⁾、
児玉 みゆき²⁾、竹山 ゆみ子²⁾、柳田 俊彦⁴⁾、木下 由美子²⁾

1) 宮崎大学医学部附属病院、2) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 成人・老年看護学領域、

3) 宮崎県立日南病院、4) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 臨床薬理

O-03 外来がん薬物療法を受ける高齢者の栄養状態の実態 質問紙および体組成を用いた横断研究

○松田 仁美¹⁾、竹山 ゆみ子²⁾、新坂 ともみ¹⁾、児玉 みゆき²⁾、川崎 麻美³⁾、内田 倫子²⁾、
野末 明希²⁾、金岡 麻希²⁾、柳田 俊彦⁴⁾、木下 由美子²⁾

1) 宮崎大学医学部附属病院、2) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 成人・老年看護学領域、

3) 宮崎県立日南病院、4) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 臨床薬理

O-04 造血幹細胞移植後長期フォローアップ外来に携わる看護師が 感染予防指導を行う上での属性別困難の特徴

○鳥塚 あゆみ、澄川 真珠子、城丸 瑞恵

札幌医科大学大学院 保健医療学研究科

11:20～11:50 口演 2群

Zoom会場2

[小児看護]

座長：大池 真樹(東北文化学園大学 医療福祉学部)

O-05 児童精神科外来を受診している子どものQOLとゲームとの付き合い方の関係

○高久 正博¹⁾、岡田 清明¹⁾、竹下 智子¹⁾、菅谷 智一²⁾、森 千鶴³⁾

1) 茨城県立こころの医療センター、2) 筑波大学、3) 東京医療学院大学

O-06 入院する発達障害児と関わる看護師が感じる困難と実践している工夫の文献検討

○源生 七海¹⁾、入江 亘²⁾、菅原 明子²⁾、塩飽 仁²⁾

1) 東北大学 医学部 保健学科 看護学専攻、2) 東北大学大学院医学系研究科 小児看護学分野

O-07 学童期に小児がん治療を受けた子どもの長期入院における心の糧

○矢田 しずえ、森 浩美

旭川医科大学 医学部 看護学科

[看護管理1]

座長：岩脇 陽子(京都府立医科大学 医学部)

O-08 転倒転落アセスメントスコアシートを活用した離床センサー解除項目の明確化

○村田 彩華

医療法人喬成会 花川病院

O-09 看護師のストレス反応を低減させる職場環境改善プログラムの確立

○吉田 えり

東京医療保健大学 和歌山看護学部

O-10 院外臨床研究コーディネーターの作業環境とストレス(1)

— 派遣先医療機関における作業環境 —

○生方 明日香¹⁾, 水野 正之²⁾, 小澤 三枝子²⁾

1) 国立看護大学校 研究課程部 看護学研究科 前期課程, 2) 国立看護大学校

O-11 院外臨床研究コーディネーターの作業環境とストレス(2)

— 派遣先医療機関におけるストレスに関連する作業環境 —

○生方 明日香¹⁾, 水野 正之²⁾, 小澤 三枝子²⁾

1) 国立看護大学校 研究課程部 看護学研究科 前期課程, 2) 国立看護大学校

[慢性期看護]

座長：藤田 君支(九州大学大学院医学研究院)

**O-12 クローン病患者のセルフケアを促進するために必要となる
アセスメント視点の明確化(第2報)**

○山本 孝治¹⁾²⁾, 布谷 麻耶³⁾

1) 日本赤十字九州国際看護大学 看護学部, 2) 武庫川女子大学大学院 看護学研究科 博士後期課程,
3) 武庫川女子大学大学院 看護学研究科

O-13 慢性心不全患者の再入院を予防するための看護に関する文献検討

○山本 裕子, 岩脇 陽子, 室田 昌子

京都府立医科大学 医学部 看護学科

O-14 心不全と糖尿病を併せもつ患者への看護ケアに関するスコーピングレビュー

○山崎 優介¹⁾, 澤岡 美咲²⁾, 黒田 寿美恵²⁾

1) 地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院, 2) 県立広島大学 保健福祉学部 看護学科

O-15 大腿骨骨折地域連携パスからみた退院先に関する患者要因

○森山 美鈴¹⁾²⁾, 津本 優子¹⁾³⁾, 福岡 美紀¹⁾³⁾, 宮本 まゆみ¹⁾³⁾

1) 島根大学大学院 医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程, 2) 松江赤十字病院,
3) 島根大学医学部 看護学科 基礎看護学講座

[看護教育1]

座長：細田 泰子(大阪府立大学大学院 看護学研究科)

O-16 看護師の急変対応時における感情と行動特性の関連性

○宇都宮 幸代, 藤井 聡
医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院

O-17 中小規模病院における卒後5年目までの看護師の看護実践能力と職場支援との関連

○柿木 守¹⁾²⁾, 福間 美紀³⁾, 宮本 まゆみ³⁾, 津本 優子³⁾
1)雲南市立病院, 2)島根大学大学院医学系研究科 看護学専攻, 3)島根大学 医学部 看護学科 基礎看護学講座

O-18 看護系大学院を修了した熟練看護師が認識する自己の役割

○後藤 直樹, 西山 ゆかり
聖泉大学大学院 看護学研究科

O-19 回復期リハビリテーション病棟看護師のやりがいの実態
～ワーク・モチベーション尺度を用いての調査～

○梶原 志保, 衛藤 愛
医療法人社団健育会 竹川病院

O-20 がん看護専門看護師教育課程への進学を促すための要因の抽出

○小林 政雄¹⁾, 山田 忍²⁾
1)和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科, 2)和歌山県立医科大学 保健看護学部

O-21 高齢者の暮らしで遭遇する不慮の事故の実態調査

○岸本 香代¹⁾²⁾³⁾，肥後 すみ子³⁾，後藤 あゆみ²⁾，深井 喜代子⁴⁾

1)第一薬科大学 看護学部，2)純真学園大学，3)無所属，4)東京慈恵会医科大学 医学部

O-22 自助グループにおけるアルコール依存症者の情緒的支援とQOL・スティグマとの関連

○本田 みづほ¹⁾，宮崎 真理子²⁾，菅谷 智一³⁾，森 千鶴⁴⁾

1)国立国際医療研究センター 国府台病院，2)国立精神・神経医療研究センター病院，3)筑波大学 医学医療系，4)東京医療学院大学

O-23 療養病床に勤務する看護職へのラジオ体操介入による効果

○西條 真紀，阿部 百合子，庄司 正枝

医療法人社団 健育会 石巻健育会病院

**O-24 内服自己管理患者における内服手技・動作の分析調査
～薬を落とさずに内服するために～**

○塩飽 悠介

医療法人社団 健育会 ねりま健育会病院

O-25 剥離強度試験を用いた静脈内留置針の固定方法の検討

○長谷川 智之，岡根 利津，市川 陽子，斎藤 真

三重県立看護大学 看護学部

O-26 地域包括ケア病棟に勤務する看護師の退院支援に関する看護実践の現状と関連要因

○荒薦 貴子¹⁾²⁾，津本 優子¹⁾，宮本 まゆみ¹⁾，福間 美紀¹⁾

1)島根大学 医学部 看護学科，2)出雲市立総合医療センター

O-27 二次救急医療を担う中小規模病院に勤務する看護師の情動知能と看護実践能力の関係

○福田 佳高¹⁾²⁾，板倉 朋世¹⁾，遠藤 恭子¹⁾

1)獨協医科大学大学院 看護学研究科，2)獨協医科大学日光医療センター

O-28 看護職のwell-beingに関連する要因の施設による相違

○山田 恵子¹⁾，中島 美津子¹⁾²⁾

1)東京医療保健大学 東が丘看護学部，2)東京医療保健大学大学院

[母性看護・災害看護]

座長：岡田 由香(日本福祉大学 看護学部)

O-29 産後1ヵ月の初産婦の育児困難感尺度の開発

○美濃口 真由美
秀明大学 看護学部

O-30 産後1ヵ月の初産婦の育児困難感にレジリエンスが及ぼす影響

○美濃口 真由美
秀明大学 看護学部

O-31 COVID-19感染拡大における妊娠期から産後1年までの
初産婦の Posttraumatic Growth に関する検討

○山口 恵子, 富岡 美佳
姫路大学 看護学部 看護学科

O-32 ドクダミの殺菌抗菌効果についての解析

○芋川 浩
福岡県立大学 看護学部

[看護教育2]

座長：池西 悦子(大阪医科大学 看護学部)

O-33 チームリーダーがチームワークに与える影響
～効果的なカンファレンスを活用して～

○丹野 梨絵
医療法人常磐会 いわき湯本病院

O-34 中堅看護師の職務レジリエンス獲得の影響要因

○吉岡 法子, 高山 直子
四国大学 看護学研究科

O-35 診療援助技術の指導に用いているオノマトペ

○林 暁子, 永田 佳子, 大津 廣子
鈴鹿医療科学大学 看護学部

O-36 急変時の対応における看護学生の臨床判断プロセスの特徴

○因 直也, 富澤 登志子
弘前大学大学院 保健学研究科

14:40～15:20 口演 10群

Zoom会場1

[精神看護]

座長：近藤 浩子(群馬大学大学院 保健学研究科)

O-37 看護系大学で精神看護学を担当する若手教員の教育実践力支援に関する検討(第2報)
— 経験1年目教員の語りから得た示唆 —

○大河内 敦子¹⁾²⁾, 榎 恵子³⁾

1) 帝京大学 医療技術学部, 2) 昭和大学大学院 保健医療学研究科, 3) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部

O-38 精神障害者の不眠における熟練看護師の臨床判断

○八塔 達寛, 塚原 貴子

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健看護学専攻

O-39 精神科看護師の攻撃性と自己嫌悪感の関係

○前原 宏美

鹿児島純心女子大学 看護栄養学部 看護学科

O-40 COVID-19拡大防止に伴う看護大学生のコミュニケーション方法とメンタルヘルス

○矢ヶ部 未奈¹⁾, 菅谷 智一²⁾, 佐藤 みつ子³⁾, 氏家 寿美子¹⁾, 森 千鶴⁴⁾

1) 筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム,
2) 筑波大学 医学医療系, 3) 了徳寺大学, 4) 東京医療学院大学

14:40～15:20 口演 11群

Zoom会場2

[急性期・ターミナル看護]

座長：赤澤 千春(大阪医科薬科大学)

O-41 本邦の看護師における Work Engagement の研究動向

○春名 美恵¹⁾, 城丸 瑞恵²⁾, 澄川 真珠子²⁾

1) 札幌医科大学 大学院保健医療学研究科, 2) 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科

O-42 血液透析の開始見合わせや中止の意思決定時における看護実践の実施状況

○石川 美智, 阿部 千賀子

活水女子大学 看護学部

O-43 看護・介護職種における終末期カンファレンスと終末期ケア態度との関連

○丸石 寛奈

医療法人社団 健育会 熱川温泉病院

O-44 救急外来看護師の心的外傷体験に関する文献検討

○寺澤 真由, 白尾 久美子, 丸山 陽子

日本福祉大学 看護学部

示説 1群

[基礎看護・看護技術]

P-001 呼吸困難感のある患者に対する寄り添う看護の実践○岡 美登里¹⁾, 本田 可奈子²⁾, 中西 京子³⁾1) 滋賀医科大学大学院 医学系研究科, 2) 滋賀県立大学 人間看護学部 人間看護学科,
3) 滋賀医科大学 医学部 看護学科**P-002** マスク着用とマスクの種類による音声聞き取りへの影響

○福重 真美, 松本 智晴, 前田 ひとみ

熊本大学大学院生命科学研究部 環境社会医学部門 看護学分野

P-003 転倒転落リスク場面における看護師と看護学生の注視時間とアセスメントの特徴
— 眼球運動測定器とインタビューより —

○山田 貴子, 藤内 美保

大分県立看護科学大学

P-004 消毒後72時間後のドレッシング剤下にある皮膚の清浄度の変化

○北田 素子, 館野 和子, 樺島 稔, 星野 聡子, 齋藤 やよい

城西国際大学 看護学部

P-005 臨床看護師の清拭方法の判断とその影響要因○伊東 美穂¹⁾, 升田 由美子²⁾

1) 旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科, 2) 旭川医科大学 医学部 看護学講座

P-006 全身浴と手浴が循環動態と心理面に及ぼす影響○山口 晴美¹⁾, 片山 恵²⁾, 田丸 朋子³⁾, 岩崎 幸恵²⁾

1) 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部, 2) 武庫川女子大学 看護学部, 3) 梅花女子大学 看護保健学部

P-007 看護師が所属する病棟のチームアプローチと
転倒・転落予防の実践状況に対する評価の関連○吉田 実和¹⁾, 堀口 雅美²⁾

1) 札幌市立大学 看護学部, 2) 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科

P-008 タッチングによる疼痛緩和効果を高めるために
— 被験者が抱く看護師の印象の違いと緩和効果との関連 —

○川野 道宏

佐久大学 看護学部 看護学科

P-009 心拍モニター音の生体への影響と音楽が与える効果の脳波学的解析○玉内 遥香¹⁾, 田中 裕二²⁾

1) 日本医科大学付属病院, 2) 千葉大学 大学院看護学研究院

P-010 更年期女性の入眠前及び睡眠早期の自律神経反応と睡眠パラメータとの関係○田中 美智子¹⁾²⁾³⁾⁴⁾, 江上 千代美²⁾, 松山 美幸²⁾, 野末 明希³⁾, 津田 智子¹⁾, 有松 操⁴⁾,
長坂 猛¹⁾

1) 宮崎県立看護大学, 2) 福岡県立大学, 3) 宮崎大学, 4) 鹿児島純心女子大学

示説 2群

[看護教育(基礎教育)]

- P-011** 新型コロナウイルス感染症により学内実習となった基盤看護学実習Ⅰに対する学生の思いと今後の課題
○高橋 方子, 富樫 千秋, 米倉 摩弥, 鈴木 康宏, 大塚 朱美, 石田 直江, 菅谷 しづ子
千葉科学大学 看護学部
- P-012** TBL (Team Based Learning) を用いた授業効果の検討
—「認知症高齢者の看護ケア」の授業における3年間の実施結果から—
○長澤 久美子¹⁾, 福岡 裕美子²⁾, 小澤 公人¹⁾
1) 常葉大学 健康科学部, 2) 青森県立保健大学 健康科学部
- P-013** 医療福祉職のリスクマネジメント教育の検討
—エイジング論の授業評価より— (9)
○檜原 登志子¹⁾, 庄司 光子²⁾, 黒沢 繭子¹⁾
1) 秋田看護福祉大学 看護福祉学部 看護学科, 2) 元秋田看護福祉大学 看護福祉学部 福祉学科
- P-014** 新型コロナウイルス感染症の拡大により非対面方式で実施した精神看護学実習における学生にとっての困難と有用性
○井上 仁美¹⁾, 宮田 孝子²⁾
1) 北海道文教大学 人間科学部 看護学科, 2) 北海道科学大学 公衆衛生看護学専攻科
- P-015** COVID-19下における遠隔授業形式での小児看護学実習の授業設計と教育実践の実際
○入江 亘, 菅原 明子, 塩飽 仁
東北大学大学院医学系研究科 小児看護学分野
- P-016** 新型コロナウイルス感染拡大下における小児看護学のオンライン実習併用による学生の学びの影響
○徳島 佐由美, 安井 渚
森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科
- P-017** 在宅看護概論におけるその人らしい生活に対する看護学生の学び
—視聴覚教材を取り入れた授業前後の比較—
○村川 陽子¹⁾, 小林 裕子¹⁾, 隈部 直子²⁾
1) 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター附属看護学校,
2) 独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター附属看護学校
- P-018** 在宅看護論実習の到達度別に教員が捉える到達度別の「関心・意欲・態度」の様相
○首藤 八千子¹⁾, 脇 幸子²⁾, 大野 夏稀²⁾, 末弘 理恵²⁾
1) 別府大学附属看護専門学校, 2) 大分大学大学院 医学系研究科
- P-019** 看護大学生を対象とした日本語で意思疎通が困難な外国人患者を想定した初診時のシミュレーション演習における学び
○古川 智恵
姫路大学 看護学部

P-020 3年課程看護専門学校における「ケーススタディ」の指導の実際○渋谷 友紀¹⁾, 安齋 利典²⁾, 古都 昌子³⁾

1) 札幌市立大学 看護学部, 2) 札幌市立大学大学院デザイン研究科, 3) 鳥取看護大学大学院 看護学研究科

P-021 医療福祉系大学生のアルバイト実施状況と生活リズムおよび睡眠時間の関係について

○原田 浩二

岐阜聖徳学園大学 看護学部

P-022 大学生のソーシャル・ジェットラグ(SJL)および朝型夜型タイプが生活リズムに与える影響

○原田 浩二

岐阜聖徳学園大学 看護学部

P-023 医療系大学生の睡眠障害と学習困難に関する悩みについて

○原田 浩二

岐阜聖徳学園大学 看護学部

P-024 基礎看護学実習準備時の学生の精神健康度とソーシャルサポート

○平賀 元美, 宮本 恵子, 世俣 智恵子, 大西 幸恵, 滝沢 美世志, 本多 利枝

名古屋学芸大学 看護学部 看護学科

P-025 看護大学生の学習継続のための学習意欲・動機づけに関する研究

○泉澤 真紀

旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科

P-026 「小児看護過程演習」における評価
～学生の演習に対する思い～○小園 由味恵¹⁾, 江村 恭子²⁾

1) 安田女子大学 看護学部 看護学科, 2) 広島市立看護専門学校

P-027 初めての看護学臨地実習前の総合技術演習の評価
—支援者の自己評価—

○岩本 真紀, 小林 秋恵, 三浦 浩美, 竹内 千夏

香川県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科

P-028 コロナ禍における A 大学の卒業時看護実践能力自己評価に関するパイロットスタディ

○田中 愛子, 白蓋 真弥, 浅海 菜月, 網木 政江, 安達 圭一郎

山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 基礎看護学講座

P-029 社会人経験看護学生に関する文献検討
—2020年までの先行研究を踏まえて—

○伊東 美智子

神戸常盤大学 保健科学部 看護学科

- P-030** コロナ禍における遠隔授業支援システム・模擬患者を活用した
課題別実習(看護の統合と実践)での学び ―学生の語りから―
○中村 由果理, 武士 由美
神戸常盤大学 保健科学部 看護学科
- P-031** 5年一貫校看護教員の教員免許種別とストレスとの関連
○道廣 陽介¹⁾, 細川 つや子²⁾, 和田 美穂³⁾
1) 姫路大学 看護学部, 2) 四條畷学園大学 看護学部, 3) 公立八鹿病院看護専門学校
- P-032** 新型コロナウイルス感染症の影響による在宅看護論実習代替の実際
○渡部 光恵, 鈴木 智子, 吉村 尚美
四国大学 看護学部
- P-033** 模擬患者参加型演習における看護学生の学びに関する文献検討
○小池 菜穂子, 湯澤 香緒里, 安田 弘子, 高橋 翔, 金子 吉美, 堀越 政孝, 萩原 英子
群馬パース大学 保健科学部 看護学科
- P-034** 看護学生のクリティカルケア実習の体験
～フォーカス・グループインタビューの分析～
○山口 馨子, 笹山 万紗代, 大場 美緒, 村田 和子, 中井 裕子, 福田 和美
福岡県立大学
- P-035** 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討
―「薬害被害者」の講演をとおして―
○廣瀬 理絵¹⁾, 塩田 昇¹⁾, 江上 千代美¹⁾, 田中 美智子²⁾
1) 福岡県立大学 看護学部, 2) 宮崎県立看護大学
- P-036** 効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築：
ICT 関連トラブルの現状と対応策の検討
○杉野 浩幸
福岡県立大学 看護学部
- P-037** 効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築-2：
遠隔授業におけるトラブルの現状と対応策の検討
○杉野 浩幸
福岡県立大学 看護学部

示説 3群

[看護教育(継続教育・その他)]

P-038 訪問看護ステーションにおける看護記録の実態調査○久米 弥寿子¹⁾, 山口 晴美²⁾, 富澤 理恵³⁾

1) 武庫川女子大学 看護学部, 2) 甲南女子大学 看護学部, 3) 大阪大学大学院医学系研究科

P-039 看護記録に対するサポートニーズについての施設特性の影響

—マルチレベル分析による検討—

○富澤 理恵¹⁾, 久米 弥寿子²⁾, 山口 晴美³⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科, 2) 武庫川女子大学 看護学部, 3) 甲南女子大学 看護学部

P-040 コロナ禍の小児看護学実習における看護学生の実習自己評価と今後の課題
～臨地実習と学内実習を比較して～

○齊藤 史恵, 木田 優子

弘前学院大学 看護学部

P-041 看護過程を基盤とした臨床実践の実現に向けて

～計画的行動理論を用いた関連要因分析～

○阿部 尚美¹⁾, 佐藤 久子²⁾, 宮下 真理子³⁾, 吉良 淳子¹⁾1) 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科, 2) 国立大学法人筑波大学附属病院,
3) 高崎総合医療センター附属高崎看護学校**P-042** 循環器病棟に勤務する看護師の患者教育力に関する現状及び関係する特性○仲田 篤孝¹⁾, 野崎 真奈美²⁾, 永野 光子²⁾

1) 順天堂大学医学部附属浦安病院, 2) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科

P-043 医療機関で感染管理を担う看護師の多職種連携の推進に向けた認識

—感染管理スキルアップ研修会受講直後の調査より—

○武田 千穂, 栗原 保子, 勝野 絵梨奈, 邊木園 幸

宮崎県立看護大学 看護学部

P-044 壮年期の死生観に関連する要因○澄川 和子¹⁾, 吾郷 美奈恵²⁾

1) 出雲市立総合医療センター, 2) 島根県立大学大学院 看護学研究科

P-045 コロナ禍の遠隔授業における教授内容の工夫

—小児看護学実習でのおもちゃ作り—

○出田 聡子, 進藤 美樹, 藤尾 順子

広島文化学園大学 看護学部 看護学科

P-046 看護教育におけるモデリングに関する研究

○岡田 郁子

旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科

P-047 コロナ禍により臨地実習から学内実習に変更となった看護学生の自己効力感

○奥村 玲子, 高畑 正子, 日浅 友裕
中京学院大学 看護学部

P-048 衛生看護科の先輩として大学教育について伝えたいこと

○岡本 千尋, 鈴木 友里華, 箕浦 文枝
中部学院大学 看護リハビリテーション学部 看護学科

P-049 女性がんサバイバーの妊孕性温存に関する看護学部生の思い
—助産師希望の学生の語りから—

○那須 明美¹⁾, 松本 啓子²⁾
1)山陽学園大学 看護学部 看護学科, 2)香川大学 医学部 看護学科

P-050 EPA 看護師候補者のための国家試験問題のルビ振り・英語併記の試み

○梅村 俊彰
富山大学大学院 医学薬学研究部 成人看護学2

P-051 臨地実習における経験と就職に関する文献検討

○竹井 留美, 佐原 弘子, 森脇 佳美, 濱島 麻衣
相山女学園大学 看護学部

示説 4群

[看護管理]

P-052 ICU で交替制勤務に就く看護師の睡眠の実態と概日リズム是正に向けた生活行動内容の検討

○岩崎 賢一, 山口 曜子
大阪市立大学大学院 看護学研究科

P-053 3年目以上の看護師が求めるインシデント回避能力

○布施 淳子, 田中 聡美, 新野 美紀
山形大学大学院 医学系研究科

P-054 計量テキスト分析による病院に勤務する看護師の職務に対する幸福感の認識

○田中 聡美, 布施 淳子
山形大学 医学部

P-055 A 病院の看護管理者とスタッフナースの倫理的行動

○牧野 真美¹⁾, 早瀬 良²⁾
1)JCHO 中京病院, 2)中部大学

P-056 高齢者介護施設で働く看護職と介護職の職務満足と個人の経験及び心理社会的要因との関連

○藤岡 文恵¹⁾, 楠葉 洋子²⁾, 梅本 直子²⁾
1)学校法人 早稲学園 衛生看護学科 非常勤, 2)福岡国際医療福祉大学 看護学部

P-057 諸外国における潜在看護師リフレッシュプログラム研究の動向
～潜在看護師の減少を目指す継続的キャリアを支援する取り組み～

○竹内 久美子
和洋女子大学 看護学部

P-058 回復期リハビリテーション病棟における
看護師の Evidenced Based Practice のための取り組み

○山口 多恵
長崎県立大学 看護栄養学部

示説 5群

[急性・慢性期看護・がん看護]

P-059 偏見や差別への不安を抱える肝疾患患者への外来療養支援
－熟練看護師 G 氏の個別分析－

○高比良 祥子
長崎県立大学 看護栄養学部

P-060 クリティカルケアに携わる看護師がターミナルケアの意思決定の援助に対し
困難と感じる内容と求める支援

○川畑 美紀¹⁾, 高見沢 恵美子²⁾
1) 北播磨総合医療センター, 2) 関西国際大学 保健医療学部 看護学科

P-061 全身麻酔で手術を受ける患者の出棟方法の違いによる
不安の VAS と唾液アミラーゼ値の変化

○鈴木 宏昌¹⁾, 池田 七衣²⁾
1) 豊橋市民病院 看護局, 2) 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部

P-062 経皮的冠動脈インターベンションを受ける患者への心理的支援に対する看護師の認識

○迫田 典子¹⁾, 関根 正²⁾
1) 東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科, 2) 獨協医科大学 看護学部

P-063 小児期発症 1 型糖尿病患者の成人期における社会生活と心情

○新川 実穂
亀田医療大学 看護学部

P-064 老健施設で勤務する老年期にある職員の Quality of dying に対する希望

○森岡 広美¹⁾, 古谷 昭雄²⁾
1) 関西医療大学 保健看護学部, 2) 前中京学院大学 看護学部

P-065 心不全患者の緩和ケアに対する循環器病棟看護師の認識と実際

○安川 千晶, 小倉 春香, 藤岡 敦子, 番所 道代, 盛永 美保
京都光華女子大学 健康科学部

- P-066** 車椅子移乗時に転倒した回復期脳卒中患者の移乗自立続行の可否を判断する
看護師の視点
○高柳 智子
新潟県立看護大学 看護学部
- P-067** 回復期リハビリテーション病棟の食支援に関わる他職種が考える看護師の
役割についての横断的調査
○徳田 葉子¹⁾, 福田 里砂²⁾
1) 元 京都看護大学 看護学部 看護学科, 2) 梅花女子大学 看護保健学部 看護学科
- P-068** 外来化学療法中の独居高齢がん患者の食生活における困りごと
○原田 清美, 關戸 啓子
京都府立医科大学 医学部 看護学科
- P-069** 乳がん患者の転倒要因と損傷の特徴
—国内における文献レビューから—
○油野 規代¹⁾²⁾, 藤田 結香里¹⁾, 加藤 真由美²⁾
1) 公立小松大学 保健医療学部 看護学科, 2) 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系
- P-070** がん治療選択場面における看護師の意思決定支援と患者の望む意思決定支援とのずれ
○山口 桃香, 村田 節子
福岡看護大学
- P-071** がん患者の血糖コントロールに関する国内文献の検討
○杉村 鮎美, 安藤 詳子
名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻
- P-072** A病院におけるピアサポートを組み入れたがん相談支援ネットワークと連携
○武富 由美子, 田淵 康子, 熊谷 有記
佐賀大学 医学部 看護学科
- P-073** 進行がん患者の Self-Perceived Burden への対処方法に関する実態調査
○大塚 美樹
島根県立大学 看護栄養学部
- P-074** がん患者の「死の受容」とはどのような状態かに関する文献検討
○下舞 紀美代, 古川 秀敏, 原田 美穂子
関西看護医療大学 看護学部
- P-075** がん患者の「終末期」という時期に関する文献検討
○原田 美穂子, 下舞 紀美代, 古川 秀敏
関西看護医療大学 看護学部
- P-076** 北東北で外来放射線治療をうける乳がん患者の主観的 QOL
○渡邊 知子¹⁾, 伊藤 由美恵²⁾, 石田 和子²⁾
1) 秋田看護福祉大学 看護福祉学部, 2) 大館市立総合病院

示説 6群

[老年看護]

- P-077** 認知症高齢者に対する周囲の関わり方の変化に関する文献検討
○三好 陽子, 古田 知香
四日市看護医療大学 看護医療学部 看護学科
- P-078** 地域在住高齢者の口腔機能とメンタルヘルス
○永田 美奈加, 鈴木 圭子
秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻
- P-079** 在宅認知症高齢者の住環境整備に関する家族の意図についての予備的研究
—市街地周辺の町に暮らす1事例の分析—
○原 祥子
島根大学 医学部
- P-080** 在宅で生活する心不全高齢者の生活様相にみる病いの受けとめ
○板持 智之¹⁾, 梶谷 みゆき²⁾, 倉鋪 桂子²⁾
1) 島根県立大学 大学院看護学研究科 博士前期課程, 2) 島根県立大学 大学院看護学研究科
- P-081** 在宅で介護を要する認知症高齢者を抱える家族の体験に関する文献検討
—研究対象に焦点を当てて—
○吉本 知恵, 竹内 千夏, 平井 智重子
香川県立保健医療大学 保健医療学部
- P-082** 慢性疾患のある独居・同居高齢者の孤独感とセルフケア能力の関連
○小林 幸恵, 白田 久美子
西九州大学 看護学部 看護学科
- P-083** レム睡眠行動障害高齢者の体験
○森島 一成, 金子 昌子
獨協医科大学大学院 看護学研究科
- P-084** 高齢者施設における COVID-19 (Coronavirus Disease 2019) 感染対策に対する文献検討
○小木曾 加奈子
岐阜大学 医学部 看護学科
- P-085** 認知症高齢者グループホームにおける看護職・介護職の関係性の構築と協働の要因
○佐久間 夕美子¹⁾, 叶谷 由佳²⁾, 有家 香³⁾, 鷗沢 淳子³⁾
1) 摂南大学 看護学部, 2) 横浜市立大学 医学部 看護学科, 3) 亀田医療大学 看護学部
- P-086** 老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について
～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～
○御手洗 みどり¹⁾, 廣瀬 理絵²⁾, 雪松 和子²⁾, 櫛 直美²⁾
1) 北九州市立大学 社会システム研究科地域社会システム専攻,
2) 福岡県立大学 看護学部 臨床看護系 老年看護領域

P-087 認知症に関するロールプレイの活用についての文献検討

○古田 知香, 三好 陽子
四日市看護医療大学 看護医療学部

P-088 急性期病院看護師による認知症高齢患者に対する多職種連携の現状と関連要因

○竹内 千夏, 吉本 知恵
香川県立保健医療大学

示説 7群

[精神看護]

P-089 専門職による精神障害者の家族支援の内容に関する文献検討

○加藤 勇人¹⁾, 鈴木 啓子²⁾
1) 名城大学大学院 看護学研究科, 2) 名城大学 人間健康学部

P-090 精神疾患患者 A 氏にとっての闘病体験の語りの意味

○門脇 恵子¹⁾²⁾, 石橋 照子³⁾, 大森 眞澄³⁾
1) 島根県立大学 大学院 看護学研究科 修士, 2) 島根県立こころの医療センター, 3) 島根県立大学 看護栄養学部

P-091 がんの告知をうけた統合失調症患者の意思尊重に関わる精神科看護師の実践

○土江 唯子¹⁾²⁾, 大森 眞澄¹⁾, 石橋 照子¹⁾
1) 島根県立大学 大学院 看護学研究科 修士, 2) 島根大学医学部附属病院

P-092 精神科看護師が考える精神科療養環境の特性(第1報)

－療養環境の評価と看護職の属性の分析

○鈴木 雪乃¹⁾, 林 和枝²⁾, 小山 沙都実¹⁾, 新井 信之¹⁾, 小林 純子²⁾
1) 名古屋女子大学 健康科学部 看護学科, 2) 椋山女学園大学 看護学部

P-093 医療系大学生の対人ストレスとスマートフォン依存に関する研究

○沖田 純奈, 近藤 浩子
群馬大学 医学部

P-094 精神科看護師が考える精神科療養環境の特性(第2報)

－社会生活に近い療養環境の評価と看護職の属性の分析

○鈴木 雪乃¹⁾, 林 和枝²⁾, 小山 沙都実¹⁾, 新井 信之¹⁾, 小林 純子²⁾
1) 名古屋女子大学 健康科学部 看護学科, 2) 椋山女学園大学 看護学部

示説 8群

[家族・母性・小児看護]

- P-095** 社会と孤立した人がいる家族の特徴と家族の力を引き出す支援
—ひきこもり支援者へのインタビューから—
○野村 佳代¹⁾, 目良 宣子²⁾
1) 防衛医科大学校, 2) 山陽学園大学
- P-096** ヤングケアラーに関する看護分野における支援の動向と課題
○内田 浩江¹⁾, 原田 俊子²⁾
1) 四條畷学園大学 看護学部, 2) 福島区医師会在宅医療・介護連携相談支援室
- P-097** 親子の「コミュニケーション」および「相互作用」を理解する
基礎的視点と解釈に関する文献検討
○加藤 まり¹⁾, 門間 晶子²⁾
1) 名古屋市立大学大学院 看護学研究科 博士後期課程, 2) 名古屋市立大学大学院 看護学研究科
- P-098** 母親の睡眠関連問題とその学童期の子どもの睡眠習慣の検討
○塩田 昇, 江上 千代美
福岡県立大学 看護学部
- P-099** 子育てレジリエンスの向上を目指した地域へのポピュレーションアプローチ
—発達障がい診断がつく前の子どもの母親への介入—
○江上 千代美¹⁾, 塩田 昇¹⁾, 野添 華²⁾, 田中 美智子³⁾
1) 福岡県立大学 看護学部, 2) 香春町保険健康課 健康づくり係, 3) 宮崎県立看護大学 看護学部
- P-100** 終末期がん患者の家族の予期悲嘆に対する看護師の関わり
○石樽 翔¹⁾, 森 京子²⁾
1) 名古屋大学医学部附属病院 看護部, 2) 名古屋学芸大学 看護学部
- P-101** 在宅で暮らす18トリソミー児の「生きる体験」と母親の思い
○合田 友美, 西田 千夏
宝塚大学 看護学部
- P-102** 思春期から若年成人のがんサバイバーのがんに関連した開示の障壁
—統合的レビュー—
○本多 直子¹⁾, 祖父江 育子²⁾
1) 長崎大学 生命医科学域保健学系, 2) 広島大学大学院 医系科学研究科
- P-103** 幼児期にある超重症児の発達支援に対する看護師の意識とケアの変化
○板谷 純子¹⁾, 小村 三千代²⁾
1) 鳥取県立中部療育園, 2) 前 鳥取看護大学

- P-104** 小児アレルギーエドゥケーター資格をもつ看護師が認識する重症食物アレルギー児の幼児期における心理社会的問題
○西田 紀子¹⁾²⁾, 植木 慎悟³⁾, 藤田 優一⁴⁾
1) 武庫川女子大学大学院 看護学研究科 博士後期課程, 2) 姫路大学 看護学部,
3) 九州大学大学院 医学系学府保健学専攻, 4) 武庫川女子大学 看護学部
- P-105** 小児看護学実習で重症心身障害児を受け持った学生のコミュニケーション・スキルと子どもの理解に関する検討
○西村 洋子¹⁾, 古株 ひろみ²⁾
1) 滋賀県立看護専門学校, 2) 滋賀県立大学
- P-106** アタッチメントスタイルと産後うつ病に関連する文献検討～国内外の文献より～
○小山田 路子, 詰坂 悦子
東京医療学院大学
- P-107** 妊娠期から親となる過程を促進する支援プログラムの検討—夫婦を支援した保健師の意見より—
○行田 智子, 橋爪 由紀子, 生方 尚絵
群馬県立県民健康科学大学 看護学部

示説 9群

[公衆衛生・地域・在宅看護]

- P-108** 地域包括ケアにおける看護師に期待される役割遂行能力
○坂本 仁美
長崎県立大学 看護栄養学部 看護学科
- P-109** 女性労働者の飲酒に関して産業看護職が行っている保健指導の現状
○古野 貴臣, 藤野 成美, 藤本 裕二
佐賀大学 医学部 看護学科
- P-110** 訪問看護ステーションにおける別居介護者支援の現状
○山根 友絵¹⁾, 百瀬 由美子²⁾
1) 豊橋創造大学 保健医療学部, 2) 愛知県立大学 看護学部
- P-111** 北海道, 東北地方の要介護高齢者に関わるケアマネージャーの口腔ケアの取り組みの実態
○河村 諒¹⁾, 東野 督子¹⁾, 小山 順子²⁾
1) 日本赤十字豊田看護大学 看護学部, 2) 豊橋創造大学 保健医療学部 看護学科
- P-112** MRSA の付着した綿, 綿ポリエステル, タオルに対する紫外線222nm 照射の殺菌効果
○福士 理沙子¹⁾²⁾, 山内 真紀子¹⁾, 高瀬 園子¹⁾
1) 弘前医療福祉大学 保健学部 看護学科, 2) 弘前大学 大学院 医学研究科 感染生体防御学講座

- P-113** COVID-19パンデミックがもたらした看護大学生・卒業生の意識と行動変容に関する研究
○蓮池 光人, 白井 文恵, 吉村 弥須子
森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科
- P-114** 産学官連携事業からみえてきた地域高齢住民が考える災害発生時の気付きと備え
○大村 由紀美, 宗正 みゆき, 吉川 千鶴子, 牧 香里, 上野 珠未, 隈本 寛子, 岩永 和代, 浦 綾子, 馬場 みちえ
福岡大学 医学部 看護学科
- P-115** 医療依存度の高い在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討
○政時 和美, 古庄 夏香, 大場 美緒
福岡県立大学 看護学部
- P-116** 希少難病である家族性特発性基底核石灰化症と告げられた人の病と共に生きる体験
○竹内 登美子, 青柳 寿弥, 栗子 嘉美
富山県立大学 看護学部

一般社団法人 日本看護研究学会 第47回学術集会

講演要旨

会長講演

脳とこころのケアとサイエンス

塩飽 仁

東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻家族支援看護学講座
小児看護学分野 教授

8月21日(土)～9月3日(金)

オンデマンド動画配信

脳とこころのケアとサイエンス

塩飽 仁

東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻家族支援看護学講座 小児看護学分野 教授

第47回学術集会のテーマを「脳とこころのケアとサイエンス」とした経緯は「ごあいさつ」で説明したとおりです。私の初めての臨床現場であった手術部では、主な担当診療科は火傷などを扱う形成外科と脳神経外科でした。ごあいさつで登場した火傷の子供は形成外科のケースでした。その他に主に脳腫瘍の手術をよく担当しました。手術部にいると全身くまなく手術部位として見るようになりますが、脳は他と比べて実に静かで不思議な存在に思えました。ヒトのころはどこにあるのかという問いに答えることは大変難しいことですが、少なくとも当時の私には脳にあるのだろうと思っていました。火傷の子供のころが荒れていくのも脳のどこかになにかが起きているに違いないと思ったものでした。

脳神経細胞の一つ一つは顕微鏡などで肉眼的に観察することができます。神経薬理的にはシナプス間隙の神経伝達物質の種類や濃淡、受容体の機能がわかっており、すでに分子レベルでも脳の機能は解明されつつあります。それらは物質的、機能的に捉えることができる現象ですが、ころはどうでしょうか。私のなかにあるもの、あなたのなかにもあるもの、誰にでもあるものなのに、直接は見えない、けれどもそこにあるものです。そして大切なことは、見えないけれどそこに存在するころは物理的な存在である身体に宿っているという事実です。身体のあらゆる部位にころは存在しますが、特に脳はその中心的な役割を果たしています。この意味では、脳ところは不可分です。むしろ一つの存在として捉えた方がよいだろうと思えます。脳を知ることはころのあり方を知ることにつながり、ころをケアすることは脳をケアすることと同義です。

約30年にわたって東北大学病院小児看護外来で多くの子供やご家族に出会ってきました。父親がお酒を飲んで暴れ母親と兄がそれを止めようとして大騒ぎになると意識を消失しその後歩けなくなる子供、学校の教室に入ると視野が狭くなってしまいう子供、子供を虐待しているのではないかと不安にさいなまれる被虐待経験のある母親、東日本大震災後に電車やエレベーターに乗れなくなってしまった子供など、ひとりひとりが忘れられない事例として積み重なってきました。

慢性的な心理社会的ストレスは、脳の海馬を萎縮させることを示した論文があることはごあいさつでも示しました。近年では、東日本大震災後にPTSDと脳の萎縮に関連があることが研究によって示されています。一方で、セロトニンを増やす薬が脳の海馬の神経新生を促進するという報告があります。セロトニンはヒトの精神機能に影響を与える神経伝達物質で、不足すると精神的に不安定になり暴力的になったりうつにつながると考えられています。

このような知見をもとに考えると、これまで出会った多くの子供と家族は、何らかの背景のもとに長期間にわたってストレスを受け続けて、海馬などの脳に傷害を受けていることが想定されるものの、適切な治療やケアを提供することで脳やころの回復が見込めるとも言えます。

だからこそ、脳とこころを探究しその成果をケアに適用することに重要な価値があるのだと考えています。

このようなケアには、ゆっくり休む時間を作る、睡眠時間を十分に確保する、食事や運動などの生活習慣を整える、趣味や熱中できることを探す、じっくり話を聞いてもらうことなどが含まれ、これらによってセロトニンの増加や海馬の傷害の修復、ころの安寧につながることが期待できるのです。

本学術集会の講演等を通して脳とこころの働きを知ることのケアの基盤としてとらえていただければ幸いです。

Blank page with horizontal dashed lines for writing.

一般社団法人 日本看護研究学会 第47回学術集会

一般演題

(口演)

8月21日(土)

O-01 がん薬物療法中患者の心配の程度と病期による違い

—がん患者心配評価尺度を用いた実態調査—

○川崎 麻美¹⁾, 金岡 麻希²⁾, 野末 明希²⁾, 新坂 ともみ³⁾, 松田 仁美³⁾, 児玉 みゆき²⁾, 内田 倫子²⁾, 竹山 ゆみ子²⁾, 柳田 俊彦⁴⁾, 木下 由美子²⁾

- 1) 宮崎県立日南病院,
- 2) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 成人・老年看護学領域,
- 3) 宮崎大学医学部附属病院,
- 4) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 臨床薬理

【目的】 がん患者の心配評価尺度(以下, BCWI; Brief Cancer Related Worry Inventory)を用いて, がん薬物療法中患者の心配の程度と病期による違いを明らかにする。

【研究方法】 2020年7月~10月に, A 県内のがん診療拠点病院とがん診療指定病院において, がん薬物療法中の患者に, 質問紙調査を実施した。病期は診療録にて確認した。分析は, BCWI 下位因子を病期 I 期 II 期 / III 期 IV 期の 2 群に分け, t 検定を行った。本研究は宮崎大学医学部医の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 調査票を配付した96名中, 90名から回答を得て(回収率93.8%), 分析対象とした。平均年齢は64.1 ± 10.0(32-83)歳, 男性58名(64.4%)であった。病期はI 期6名(6.7%) / II 期17名(18.9%) / III 期25名(27.8%) / IV 期42名(46.7%)であった。『将来に対する心配』は, I 期68.3 ± 21.0 / II 期56.8 ± 16.5 / III 期49.9 ± 26.0 / IV 期50.6 ± 26.2であった。『身体に関する心配』は, I 期60.8 ± 23.2 / II 期45.3 ± 14.9 / III 期39.5 ± 20.3 / IV 期40.4 ± 24.9であった(p=0.0810)。『社会や対人関係に関する心配』は, I 期48.3 ± 17.5 / II 期44.6 ± 19.1 / III 期40.4 ± 23.9, IV 期39.5 ± 21.1であった(P=0.7102)。『将来に対する心配』と『社会や対人関係に関する心配』は病期による違いはなかったが, 『身体に関する心配』はI 期II 期が49.3 ± 38.7, III 期IV 期が38.7 ± 21.7点と, 病期が進行していないI 期II 期の方が有意に高かった(p=0.0385)。

【考察】 すべての病期で『将来に対する心配』が最も大きかった。病期別では, 『将来に対する心配』と『社会や対人関係に関する心配』に有意差はみられず, がんの進行とそれらの心配の程度は関連しないと考えられた。一方, 『身体に関する心配』はI 期II 期の方が高く, 進行していない患者でより配慮する必要性が示唆された。

O-02 がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life とレジリエンスに関する横断研究: 生命予後別の比較

○新坂 ともみ¹⁾²⁾³⁾⁴⁾, 金岡 麻希²⁾, 内田 倫子²⁾, 川崎 麻美³⁾, 松田 仁美¹⁾, 野末 明希²⁾, 児玉 みゆき²⁾, 竹山 ゆみ子²⁾, 柳田 俊彦⁴⁾, 木下 由美子²⁾

- 1) 宮崎大学医学部附属病院,
- 2) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 成人・老年看護学領域,
- 3) 宮崎県立日南病院,
- 4) 宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 臨床薬理

【目的】 がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life (以下, QOL) とレジリエンスについて, 生命予後別に実態を調査し, QOL に関連する機能や症状を探索し, 患者の生命予後を踏まえた QOL の維持・向上に向けた看護ケアの示唆を得る。

【方法】 2020年7~10月, 都道府県がん診療連携拠点病院の A 病院と B 県がん診療指定病院の C 病院において, 20歳以上のがん患者を対象に EORTC QLQ-C30v3 と Resilience Scale (RS-14) を用いた自記式質問紙調査を実施した。対象者を5年生存率50%以上群, 50%未満群の2群に分け, カイ二乗検定と t 検定を用いて QOL とレジリエンスを比較した。その後, 総合的 QOL とレジリエンスとの関連を Pearson の相関を用いて分析した。本研究は, 宮崎大学医学部医の倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号 O-0725)。

【結果】 108名に依頼し, 105名回収(回収率97.2%)有効回答は101名(有効回答率93.5%)であった。対象は, 年齢63.6 ± 9.8歳, 男性61名(60.4%), 大腸がん33名(32.7%), 診断時病期IV 期42名(41.6%), 緩和的化学療法84名(83.2%)であった。生命予後別の比較では, 5年生存率50%未満群63名(62.4%)は, 男性が多く(p=0.01), 総合的 QOL 62.0 ± 2.9(p=0.03), 感情機能86.1 ± 2.1(p=0.01)であり, 50%以上群より有意に良好であった。レジリエンスは, 2群間に有意差はなかった。総合的 QOL とレジリエンスは, 5年生存率50%未満群のみで r = 0.40(p=0.01)と有意な相関を示した。

【考察】 5年生存率50%未満群は, 50%以上群に比べて総合的 QOL と感情機能が有意に高かったが, 50%未満群には疾病の受容過程が進んだ患者が多く含まれていたことが, 良好な QOL と関連している可能性がある。5年生存率50%未満群は50%以上群より, 総合的 QOL と機能・症状の相関は弱かった。2群のレジリエンス得点に差はないものの, 50%未満群のみで総合的 QOL とレジリエンスは有意な相関を示した。本研究ではその要因を明らかにすることはできなかったが, 予後不良患者の QOL には, レジリエンスの他, 複雑な要因が影響していることが考えられ, さらなる研究の必要性が示唆された。

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing or drawing.